

## 第10章（ポスト冷戦期の外交・安全保障政策）の重要用語

### ①冷戦

第二次世界大戦後に生じたアメリカを中心とした民主主義と資本主義経済システムをとる西側陣営と、ソ連を中心とした共産主義と計画経済システムをとる東側陣営の対立構造のこと。この対立構造は、時に緊張の緩和が見られることもあったが、基本的に1989年まで継続した。

### ②孤立主義

アメリカは国際社会との政治的な関わり（軍事同盟を他国と結ぶなど）をできるだけ避けることを外交方針とすべきであるという立場。孤立主義は、初期アメリカ外交を支えた重要な外交理念であり、現代のアメリカ外交にも影響を与え続けている。

### ③国際主義

アメリカは国際社会に対して積極的に関与していくことを外交方針の基本とすべきだという考え方。第二次世界大戦への参戦を契機として、孤立主義に代わり、アメリカ外交を支える重要な外交理念となった。

### ④理想主義

自由や民主主義といった「アメリカ的価値」を国際社会へと拡大し、平和で安定的な国際秩序を構築することこそがアメリカの使命であるという考え方。

### ⑤現実主義

国際社会を国家間の国益が衝突しあうリアリズムが支配する世界と捉え、理念ではなく経済力や軍事力といった力を活用し、自国の国益の最大化を目指すことを外交政策の基軸に据えるべきであるという考え方。

### ⑥単独主義

アメリカの外交政策上の目的を実現するためには、たとえ国際社会から厳しい批判があったとしても、単独で行動する（軍事力の行使も含む）ことを辞さないという考え方。

### ⑦多国間主義

国際機関や多国間での合意を重視し、その枠内でアメリカの外交政策上の目的を実現していこうという考え方。

### ⑧世界貿易機関（WTO）

1995年、マラケシュ協定に基づいて設立された国際機関。モノやサービスの貿易だけでなく、知的財産権や金融など、国際的な取引に関わるあらゆる問題の協議が行われている。

### ⑨湾岸戦争

1990年8月、イラクのサダム・フセイン（Saddam Hussein）政権が、突如クウェートに軍事侵攻し、そこを占領したことを契機として生じた戦争。これに対して G・H・W・ブッシュ政権（1989～1992年）は、イラクにクウェートからの即時撤退を要求する一方、国連の安全保障理事会において対イラク武力行使を容認する決議（1990年11月）を獲得した。アメリカ議会も1991年1月12日にイラクに対する武力行使の権限をブッシュ政権に与えた。そして、アメリカを中心とする多国籍軍は、1991年1月16日にイラクに対する軍事行動を開始し、2月28日にはイラクをクウェート領内から駆逐することに成功した。イラクは、クウェートへの不可侵、大量破壊兵器（核、生物、化学兵器）の査察及び廃棄などを定めた国連決議に基づく停戦を受け入れざるをえなかった。

### ⑩新世界秩序

G・H・W・ブッシュ政権によって提唱された、自由と民主主義に基づく国際秩序を、国連におけるアメリカを中心とした多国間協力によって構築していくことを目指した構想。

### ⑪関与と拡大

B・クリントン政権（1993～2000年）によって提唱された、市場経済と民主主義の拡大を外交政策の目標とする対外戦略。市場経済と民主主義の拡大が、アメリカと世界の安定と繁栄をもたらすと考えられた。

### ⑫ならずもの国家

B・クリントン政権下において、アメリカが主導する国際秩序に従わない「安全保障上の脅威」とされた諸国のこと。イラク、イラン、北朝鮮、リビア、アフガニスタンなどが当てはまる。

### ⑬マルチトラック・アプローチ

多国間、地域、二国間における交渉を並行して進めていくことで国際的な貿易自由化を促進しようとする通商戦略。B・クリントン政権によって採用され、大きな成功を収めた。

### ⑭ファストトラック（貿易促進権限）

大統領が結んだ通商協定について、議会は90日以内に一切修正せずに認めるか、否決するかを決定しなければならない、という仕組み。この権限を大統領が有している場合、通商協定の交渉・締結をスムーズに進めることができるが、有していない場合、通商交渉が停滞してしまう可能性が高い。

### ⑮イラク戦争

イラクのフセイン政権が大量破壊兵器を保有しているという疑惑を持った G・W・ブッシュ政権（2001～2008年）によって始められた戦争。アメリカは当初イラクに対する武力行

使を正当化する国連決議の獲得を目指していたが、独仏等の反対により断念し、イギリスなど有志連合の支持に基づき、2003年3月にイラクに対する武力行使に踏み切った。そして、フセイン政権を打倒し、2003年5月にはイラクにおける戦闘終結を宣言した。しかし、イラクに対するブッシュ政権による単独主義的な武力行使は、国際社会からの厳しい批判を浴びた。またイラクの占領統治の泥沼化、フセイン政権による大量破壊兵器の保有が確認できなかったことから、アメリカ国内におけるブッシュ政権への支持も大きく低下した。